材　料　使　用　届（Ⅰ）

年　月　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

受　注　者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

現場代理人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記の通り使用材料を提出いたします。

工事番号		施工場所		工期	年　月　日から
工事名					年　月　日まで

使用材料				産地又は製造工場		添付書類 配合計画書→A　配合設定書→B 試験成績書→C　その他→資料名	備考 （配合計画期限等）
名称	規格	単位	数量		県内		

本工事について，上記の材料使用を承諾します。

なお，配合等期限を過ぎて使用する場合，又は製造工場等に変更のある場合は再届出すること。

監督員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

年　月　日　　監督員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

工　事　主　要　材　料　使　用　総　括　表　（Ⅰ）

工事番号

工　事　名

工　　期　　年　月　日～　　年　月　日

事務所名

監　督　員

監　督　員

受　　注　　者

現場代理人又は

施工管理担当者

材料名称		設計内容					数量			差	備考
名称	規格 形状寸法	工種	名称	細別	単位	数量	単位	① 設計	② 使用	②－①	

品　質　管　理　一　覧　表　（Ⅰ）

工事番号
工　事　名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日

事務所名
監　督　員
監　督　員

受　　注　　者
現場代理人又は
施工管理担当者

工　種	名　称	細　別	設計数量	単位	管理基準							試験及び管理結果			監督員合否判定
					試験管理項目	試験管理数量	試験管理頻度	試験管理回数	試験管理方法	規格値	備考	試験管理回数	最大値 最小値	平均値（結果値）	

出　来　形　管　理　一　覧　表　（Ⅰ）

工事番号　　事務所名　　受　注　者

工　事　名　　監　督　員　　現場代理人又は

工　期　　年　月　日～　　年　月　日　　監　督　員　　施工管理担当者

工　種	名　称	細　別	設計数量	単位	管　理　基　準					管理結果			監督員合否判定
					管理項目	管理頻度	管理回数	規格値	備考	管理回数	最大値 最小値	平均値（結果値）	

出　来　形　管　理　図　表　（Ⅲ）

工事番号
工　事　名　　事務所名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日　　監　督　員　　受　注　者
工　種　名　　監　督　員　　測　定　者

測点															
測定値	掘削高														
	上幅														
	下幅														
掘削高設計高と測定値高の差	上限規格値(SU)	±0													
	規格中心 (CL)														
	下限規格値(SL)	-150													
上幅ズレ設計値と測定値の差	上限規格値(SU)	+150													
	規格中心 (CL)														
	下限規格値(SL)	±0													
下幅ズレ設計値と測定値の差	上限規格値(SU)	+150													
	規格中心 (CL)														
	下限規格値(SL)	±0													

摘　要

（注）　１．　測定値欄は、設計値は測定値との差を記入する。必要に応じ設計値又は測定値

２．　上限・下限規格値線は赤書きとする。

出　来　形　管　理　図　表　（V）

工事番号
工　事　名　　事務所名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日　　監　督　員　　受　注　者
工　種　名　　監　督　員　　測　定　者

測　　点															
測定値	土被り高														
	長さ（区間）														
	中心線														
土被り高の設計高と測定値高の差	上限規格値(SU)	±0													
	規格中心（CL）														
	下限規格値(SL)	-150													
中心線ズレの設計値と測定値の差	上限規格値(SU)	+100													
	規格中心（CL）	±0													
	下限規格値(SL)	-100													

摘　要

（注）　1．　測定値欄は、設計値は測定値との差を記入する。必要に応じ設計値又は測定値

2．　上限・下限規格値線は赤書きとする。

出　来　形　管　理　図　表　（Ⅶ）

工事番号
工　事　名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日
工　種　名

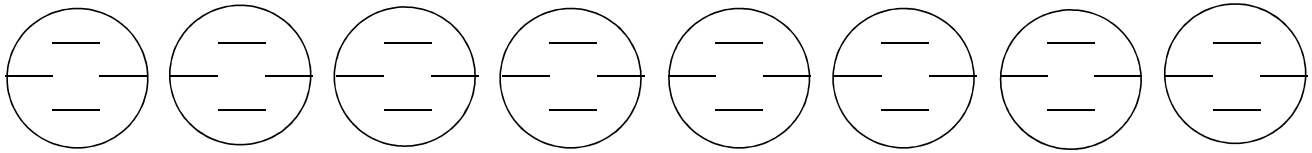
事務所名
監　督　員
監　督　員

受　注　者
測　定　者

管径（管厚）											備　考
名　称											
寸　法											
管体番号											
内面タール エポキシ 外面アスファルト ビニロンクロス											内面の測定値は内面、外面の測定値は外面に記入する。
ホリデーディテクター検査	内面										
	外面										
X線検査											等級を記入
溶接年月日	内面										
	外面										
塗装年月日	内面										検査年月日を記入
	外面										
厚さ　内面　上限規格	+0.2 mm										測定値は最小値を使用
厚さ　内面　規格中心	±0 mm										
厚さ　外面　上限規格											
厚さ　外面　規格中心	±0 mm										

出　来　形　管　理　図　表　（Ⅸ）

工事番号
工　事　名　　事務所名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日　　監　督　員　　受　注　者
工　種　名　ダクタイル鋳鉄管接合　　監　督　員　　測　定　者

管径（型、種管）										備　　考
名　　称										
寸　　法										
管　体　番　号										
胴　体　間　隔 b、b_1、b_2										外面よりの測定値 b、b_1、b、b_1を記入 内面よりの測定値b_2を各々記入する。
接　合　年　月　日										
接　合　確　認　者										トルクレンチの確認者

接　合　配　管　図

（注）　測定者とは胴付間隔の確認者をいう。

コンクリート圧縮強度試験管理図表　［Ｉ］

（曲げ・引張強度試験もこれに準ずる）

工事番号 工　事　名 工　種　名	事務所名 監　督　員 受　注　者 現場代理人	強度試験 実施機関名 試　験　者

供試体番号		製作年月日	試験年月日	材令（日）	供試体寸法 直径(cm)	供試体寸法 高さ(cm)	見掛密度 (kg/m³)	スランプ (cm)	空気量 (%)	圧縮強度 (N/mm²)	圧縮強度平均値 (N/mm²)		養生方法	供試体の破壊状況	摘要
	1														
	2														
	3														
	1														
	2														
	3														
	1														
	2														
	3														
	1														
	2														
	3														
	1														
	2														
	3														
	1														
	2														
	3														

管理図	供試体番号							
	圧縮強度 N/mm2	CL						
		LL						

判定

① 1回の結果が85%以上　　② 3回の平均値が規格値以上

示方配合	粗骨材の最大寸法 (cm)	ｽﾗﾝﾌﾟの目標値 (cm)	空気量の目標値 (cm)	水ｾﾒﾝﾄ比 (w/c) (%)	細骨材率 (S/a) (%)	単位量 (kg/m³) 水(W) 量	セメント(C) 種類	セメント(C) 量	細骨材(S) 種類	細骨材(S) 量	粗骨材(G) 種類	粗骨材(G) 量	混和剤 種類	混和剤 量	混和材 種類	混和材 量	その他の指示事項

設計基準強度	N/mm²	設計基準強度保証材令	日	基準スランプ	cm	基準空気量	%	その他	

注１．　試験を(一財)茨城県建設技術管理センターで行った場合は、別に試験データを添付し、該当欄に転記して管理図を作成する。なお、試験者名及び印を省略してもよい。

注２．　管理図に、設計基準強度の85%を下限規格値として赤書きすること。

出　来　形　管　理　表　（Ⅰ）

工事番号
工　事　名
工　　期　　年　月　日～　　年　月　日

事務所名
監　督　員
監　督　員

受　注　者
担　当　者

幅　員

①＝
②＝
③＝
④＝

左	中	右
①		
②		
③		
④		

構成図

測　点	工　種	基準高　mm 規格値 設計値	測定値	差	幅　員　mm 規格値 設計値	測定値	差	工　種	厚さ　mm 左 測定値	施工厚	中 測定値	施工厚	右 測定値	施工厚	平均値 測定値	施工厚	差	規格値
									①		①		①		①			
									②	②－①	②	②－①	②	②－①	②	②－①		
									③	③－②	③	③－②	③	③－②	③	③－②		
									④	④－③	④	④－③	④	④－③	④	④－③		

ﾌﾟﾙｰﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ測定結果一覧表

工事名　　事務所名　　受注者

工　期　・・～・・　　監督員　　現場代理人

No.	路床路盤の別	使用機種	車線右左	沈下の大きさ	附近の状況	監督員との打合せ	その結果	備考
（記載例）								
ＢＰ	路床	ダンプ	右側	大きい（１cm程度）	No.２附近20mに沈下が見られる	①転圧不足か ②路床材料の不良か ③路床部の不良か 検討の事	「締固め密度の測定」を行った結果転圧不足と判明。再度転圧	ＣＢＲ測定をし、路床支持力の確認を行った
No.２	〃	〃						
No.４	〃	〃						
No.６	〃	〃		小さい（３mm程度）				
No.８	〃	〃						
No.10	〃	〃						
No.12	〃	〃						
				（ ）は目視による沈下量を記入				